

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の申請主体

福島県福島市

### 2 地域再生計画の名称

飯坂町地域再生計画

～もてなしとくつろぎの飯坂温泉郷を目指して～

### 3 地域再生の取組を進めようとする期間

平成18年度から約5年間

### 4 地域再生計画の意義及び目標

#### (1) 福島市飯坂町の沿革

福島県福島市飯坂町は、福島市の市街地から約9km北方に位置し、飯坂温泉を基盤とし、「いで湯とくだもの」の里として栄えてきた温泉町であります。

飯坂温泉は、日本武尊が東北征討の時に発見、開湯したという伝説があり、温泉が多い東北地方でも、宮城県の秋保、鳴子とともに、東北三名湯のひとつとして多くの人々に親しまれてきました。

大正時代になると、福島市と飯坂町を結ぶ道路は、人や物資の往来が増加し、大正13年(1924年)には福島・飯坂電気軌道が開通され、観光の拠点として、温泉利用者、観光客等が増加し、旅館も数多く建設されてきました。

戦後から近年にかけては、各旅館は近代的な建物に変貌していき、公衆浴場も復活するなどの賑わいの中、観光温泉町として発展を遂げてきました。

また、飯坂町の温泉街中心部を流れる1級河川摺上川すりかみの上流には、現在、水道用水供給を主とした多目的ダムである摺上川ダムが昭和60年に事業着手され、平成17年度の完成に向けて建設中であります。

ダムサイト周辺から下流部にかけては大変美しい森、湖、せせらぎなどの自然環境に包まれており、下流域に点在する集落のたたずまいも、周囲の自然に調和し、のどかな風景を織りなしています。

本地域の原風景や自然環境は、地域の財産であり、「自然」と、「地域の発展」が調和をもって進められていくことが、今後求められる取り組みととらえております。

## (2) 福島市飯坂町の現況

飯坂町は、270.32平方キロメートルの広大な面積を有しており、次に記述する地域、河川が地域全体を有機的に連携する重要な構成軸となっております。

- ) 地域の中心部に位置する「飯坂温泉市街地エリア」
- ) 温泉街の中心を流れる「1級河川摺上川と川辺」
- ) 美しい自然環境に包まれた「摺上川ダム周辺エリア」

### ) 飯坂温泉市街地エリア

飯坂温泉は、近年においては、急激な社会経済状況等の変化により、観光客、宿泊客は減少してきており、昭和40年代後半の最盛期には120軒の旅館と、年間178万人の観光客入り込み数があり活況を呈してきたものでしたが、現在は、往時の面影は薄れ、廃業などによる空き旅館が点在し、平成15年には旅館が64軒と激減し、観光客の年間の入り込み数は101万人まで減少しており、これらの後退状況に対して、歯止めをかけるまでには至っていない現状にあります。

加えて、飯坂温泉の玄関口であり、顔でもある飯坂温泉駅前には、平成6年、火災により飯坂温泉を代表する老舗旅館が全焼し、現在も無惨な焼け跡のまま残っており、景観や雰囲気はもとより、飯坂温泉全体に極めて大きいマイナスイメージを与えていますが、現状は対処困難な状況にあります。

また、飯坂町市街地の中心部には、1800年代初頭から豪商として栄え、衆議院議長や、東京市長を輩出した旧家「堀切邸(旧きりてい 敷地面積4,082㎡)」があり、飯坂温泉街の中心部に位置する立地環境と、歴史的にも保存に値する地域資源といえるものにありながらも、未活用のまま閉鎖され埋もれている状態にあることなど、温泉観光地としての再生に向けて、さまざまな課題改善の取り組みをしていく必要があります。

そして、火災で無惨に残った建物の跡利用、地域資源である堀切邸の有効活用は、飯坂温泉市街地エリアの課題改善の2大テーマでもあり、地域再生の糸口になるものにとらえております。

一方で、当地域は、平成13年度から取り組んでいる「飯坂町湯沢周辺区域街なみ環境整備事業」により、温泉街中心部の道路の石畳風舗装への美装化計画、案内サイン、ストリートファニチャーなどの設置や、小公園の整備など徐々にではありますが、再生に向けた基盤整備が進みつつあり、ここに地域の埋もれてい

る地域資源の再生や、地域の交流などをおかみ合わせながら、再生のうねりを作り上げていきたいと考えております。

#### ） 摺上川と川辺

飯坂温泉の中心部には、1級河川摺上川が流れており、市民生活上の基幹河川として地域にとけ込んでおります。

河川の両側には旅館、ホテルが建ち並び、温泉街を流れる川として温泉情緒を一層強く醸しだし、地域のひとびとに親しまれていることは勿論のこと、飯坂温泉のシンボルリバーとして、飯坂温泉の再生、活性化とは景観上切り離せないものとなっております。

そして、前述の火災で残った旅館建物は、川の風景を著しく損ねており、この河川の活用と風景づくりは、今後の地域再生のカギとなっております。

#### ） 摺上川ダム周辺エリア

摺上川上流約10kmの福島市飯坂町茂庭地区には現在、水道用水、工業用水の供給をはじめとした多目的ダムである摺上川ダムが、国の直轄事業として平成17年度の完成に向けて建設中であります。

摺上川ダムはダム湖を中心に、森や、せせらぎなど静かで、手つかずの美しい自然環境が残され、優れた景観に包まれており、ダム本体工事とあわせ、ダム周辺においても“自然との共生、森、水文化とのふれあい”を目指し、「桃源の香りただようダムの郷」を整備理念として、ダム管理庁舎を利用した展示室やレクチャールーム、親水公園、展望広場等の整備、公衆浴場「もにわの湯」の建設など、周辺の環境整備も総合的に進められております。

また、ダムの下流域に広がる集落地域の発展も、自然との調和の中で考えていかなければならない課題であり、「美しい自然環境の保全」と「地域の秩序のある発展」は、今後の地域づくりを進めていくうえで、重要なテーマとしてとらえているものです。

あわせて、水道用水供給というダムの主目的を鑑み、本市においては平成14年12月水道水源保護条例を制定し、ダム周辺地域を含む約13,000ヘクタールを水源保護地域として、平成15年6月に指定し、水源地の環境や“清流”摺上川を守る取り組みを行っております。

#### 地域再生に向けた連携

飯坂地域の再生を目指していくうえでは、上述の飯坂温泉市街地エリアを核に、森、湖など美しい自然環境を有し、観光資源としての潜在的な価値も高い摺上川ダム周辺エリアの保全・環境整備等、摺上川と川辺の活用と風景づくり、飯坂温

泉街の地域資源の掘り起こしや、道路・公園の整備など、それぞれの取り組みを有機的に連携させ、地域と、国、県、市の行政が一体の取り組みを展開していくことが、飯坂地域全体の活性化と再生につながるものと考えております。

### (3) 再生計画の意義と目標

#### 再生計画の意義

本地域の飯坂町市街地部においては、地域再生に向けた議論は徐々にではありますが進み出しており、地域再生計画検討のミニ版ともいえる地元の観光協会、旅館協同組合、商工会、町内会、県、市等で組織するまちづくりを話し合う懇談会が活動の第一歩を踏み出しております。地域に芽生えた活性化の取り組みを、支援措置の有効活用によって、より確実なものとしていくために、地域住民と行政が一体となって、今後進めていく方向性と取り組みの姿勢を検討、示していく考えでおります。

しかしながら、現在の社会経済状況は、長引く景気の低迷とこれに伴う旅館、ホテルなどの廃業などに表れているように、観光関連事業者の経営状況等は厳しい状況にあり、観光経済の指標ともいえる観光客の入り込み数は、昭和48年の178万人をピークに、翌年以降は減少に転じ、平成5年には135万人、平成10年は116万人、平成15年は101万人と落ち込みが続いているのが現状です。

これは、長引く経済の落ち込みなどの社会状況、新幹線、高速道路など高速交通網の整備に伴う素通りや、秘湯ブームなど観光スポットの分散化、広域化等の一因により、観光客入り込み数の減少傾向が顕著になってきているとみられるものです。

これらを打開するよう、新たな設備投資や特色ある商品開発、首都圏へのアピール、全国への情報発信など、多様な自助努力を尽くしながらも、地域総体の体力の疲弊もあり、好転するまでには至っていないのが実態です。

本再生計画は、本地域が持つ様々な課題を整理・抽出し、地域の再生に向け、地域の特性を最大限活かしながら、地域が自ら考え行動することを基本スタンスとし、多様な案や方向性を示し、地域と行政がそれぞれに役割を果たすよう取り組み方法を検討、実践していく。

このことにより、かつての観光温泉地としての活況、賑わいを取り戻すことと同時に、「自助と自立の精神」の醸成がなされ、地域の人々が自分の住む町を愛し、誇りに思い、いきいきと自立、生活できるための指標となりうるものであり、再生計画の認定は、地域全体の活性化、また持続可能な地域再生に向けての礎として効果が大きいと期待できるものと考えております。

## 再生計画の目標

### 1) 計画の方向性

#### 3 エリアの連携

#### ～地域づくりの連携軸“森、湖と川と温泉”～

本地域は、飯坂温泉を核に、観光を基盤として地域の再生を図っていくものがありますが、それは単に地域の公共施設等を改善整備することや、旅館・ホテルの更新、通りの賑やかさなどのことだけではなく、昨今では「手つかずの自然」、「とっておきの風景」、「もてなしのこころ」、「くつろぎ」など派手さはないがどこか“ほっ”とするような風景や空間、人情、仕掛けが求められているように、本再生計画においては、飯坂ならではの地域の歴史や自然、風景など地域特性を最大限活かした取り組みを進めていきます。

また、地域に暮らすひとびとが、ふれあい、いきいきと生活していくことが、地域全体に活力と創造を生み出す源であり、これらをより高めていく取り組みを進めていきます。

このため、飯坂温泉市街地エリアにおいては、地域の財産である「温泉」や、堀切邸など地域資源を最大限活用しながら、地域活性化と地域交流の基盤づくりの取り組みを進め、摺上川ダム周辺エリアにおいては、森や湖、せせらぎなど、静かで、豊かな美しい自然環境を育て守り、これと調和する地域づくりを進め、摺上川においては、清流、風景を守り、より地域に親しまれ、愛される取り組みを進めていきます。

そして、これらがかみ合いながら、持続的に発展していかなければなりません。

これらは、飯坂再生の軸をなす

- ・飯坂温泉市街地エリア
- ・摺上川と川辺エリア
- ・摺上川ダム周辺エリア

の3エリアが連携軸となって、それぞれがエリアの特性を活かし再生を目指していくことが、有機的に連携の効果を発揮し、地域全体の持続可能な再生に向けて、押し上げていくものであると考えます。

#### 目標への仕組みづくり

本再生計画では、

飯坂温泉市街地エリアにおいては、摺上川との風景の関係を大切な連携の軸としながら、

- ・「温泉情緒豊かな風景や空間による“もてなしとくつろぎ”の地域づくり」
- ・「地域のふれあいが高まる、いきいき生活地域づくり」

としての基盤づくりを、

また、摺上川ダム周辺エリアにおいては、  
・「自然環境の保全と、これに調和した地域づくり」  
を重点的に進めていきたいと考えております。

その仕組みづくりとして、まちづくり交付金の活用を検討しつつ、併せて現在採択されている街なみ環境整備事業と連携しながら、次にあげる取り組みを推進し、湯の町「飯坂」の再生を図り、もてなしとくつろぎの温泉郷の創造を目指します。

#### 温泉街の情緒漂う街並みや空間の創出を図る

火災で残った旅館建物の撤去と跡利用の検討

温泉情緒を感じることができる歩行者回遊軸の検討

- ・歴史、温泉、土産などを意識した地域ならではの回遊軸の選定
- ・湯巡りマップの制作
- ・休みどころマップの制作 など

温泉情緒漂う空間の創出の検討

- ・和風基調の石畳などをイメージした道路の整備
- ・温泉街サイズの小径整備
- ・足元灯（フットライト）や街路灯の美装化
- ・暖かみがあり周囲と調和する建物の屋根、壁、塀、植栽などの修景整備

旅行者にもやさしく分かりやすい案内サイン

公衆浴場（9カ所）の改修による温泉回遊軸の整備

足湯の整備

地域の特徴である起伏に富む地形を活かした石段整備

（石段は地域では「ちゃんこちゃんこ」と呼ばれ親しまれている。）

「うまいもの商店街エリア」、「ふれあい職人エリア」、「歴史と温泉情緒エリア」、「提灯街エリア」などのもてなしのエリアづくりの検討

#### 地域のふれあいやコミュニティを高める空間の創出

歴史のある「堀切邸」の地域交流センターとして活用

摺上川とのふれあいをつくる親水公園の整備

小公園などによるふれあい空間の創出

#### 自然環境の保全と、これに調和した地域づくり

摺上川ダム周辺エリアの自然環境の保全

地域の秩序のある発展を保つルールづくりの検討

摺上川ダム周辺の自然と調和した環境整備

## 2) 再生計画の目標実現に向けて

地域再生を推進していくためには、本再生計画の円滑な実施に向けて、地域と行政が一体となり、多様で積極的な地域活動の展開が求められ、これらを展望した推進体制づくりを進める必要があります。

本再生計画は福島市を主体に、総合的な調整・協議を行いながら推進していくものでありますが、活力ある湯の町飯坂の再生を目指していくためには、行政のリードに加え、第一には地元が住む町のことを自ら考え、実践していかなければなりません。

また、地域再生には、地元のひとびとの広い範囲にわたり理解と協力が必要であり、地域全体的な再生への意識の高揚も大切であります。

これらのことより、計画をより円滑に推進していくため、活動の緒についたまちづくりを話し合う懇談会を母体に、飯坂温泉観光協会、飯坂温泉旅館協同組合、町内会、商工会、行政からなる推進組織「(仮称)飯坂地域再生推進協議会」を設立します。

併せて、摺上川ダム周辺の地域づくりに向けては、「摺上川ダム周辺地域づくり懇談会」を設立し、環境保全や土地利用のあり方など、取り組みの方向性を検討していきます。

また、状況に応じた機動的な対応ができる体制の整備をし、国、県との連携を密に図りながら柔軟に対応できるよう努めていきます。

### 推進組織の役割イメージ

#### 行政の役割

- ・再生計画実現に向けた総合調整
- ・歩行者回遊軸の総合的な検討、整備  
(メイン道路、小径、足元灯、街路灯、石段、サイン計画、マップ計画)
- ・足湯の検討、整備
- ・地域交流の拠点づくりの整備(地域交流センター)
- ・ふれあい、憩いの空間整備(小公園、親水公園)
- ・摺上川ダム周辺の環境整備
- ・街並み修景整備への支援
- ・まちづくりアドバイザーの派遣支援

## 地域の役割

- ・「もてなし、くつろぎ」の仕掛けと仕組みづくり
- ・観光温泉地としてのPR活動
- ・空き旅館などの活用方法の検討
- ・地域意向（ニーズ）の把握と地域全体の合意形成
- ・歩行者回遊軸の選定
- ・歴史、伝統、地域の特性を活かしたまちづくりの検討
- ・地元産品活用の検討
- ・自然環境の保全と調和した地域づくりのあり方の検討

## 5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

### (1) 観光客の増加

本再生計画はもてなしとくつろぎの温泉郷を目指し、歩行者が歩き、楽しみ、ふれあいや、くつろぎを感じてもらえることを目標に、地域の歴史ある建物の活用、温泉街の情緒豊かなまちづくりなど、地域の特性を使った多様な仕掛けを進めていくことにしています。

歩行者回遊軸としてはこれまで不十分であったところを改善、向上していくことで飲食店、土産物などの各種商店、観光関連事業等への経済的波及効果は大きいと考えます。

地元産品の活用では、その代表であるくだもの類（とりわけ桃、梨は全国一の生産量を誇り、飯坂町は桃の主産地という土地柄）の宣伝効果、消費拡大にもつながり、地域に対する経済的波及効果も大きいといえます。

また、観光客に“温泉”を満喫してもらおう取り組みと同時に、摺上川ダム周辺の造形美と自然美の織りなす風景を大切にしていける取り組みが、訪れる旅行者の心をきっととらえていくものと考えます。

そして、これらの取り組みにより、ともすれば団体客に頼りがちであった観光戦略に、リピーターが加わり、また新たな観光客の掘り起こしが期待でき、この間減少が続いてきた観光客数に歯止めをかけることができるものと期待しており、地域に及ぼす経済的社会的効果は大きいものと考えます。

具体的には、平成15年の観光客入り込み数101万人からの減少に歯止めをかけ、5年後には増加傾向に転じていくことを目指します。

### (2) 地域の活力の向上

地域に暮らすひとびとがいいきと生活していくことが、ある意味では地域に



活力と創造を生み出す源であると考えていることから、これらの取り組みをとおし、昨今薄れがちになりつつある地域のコミュニティ、ふれあい、交流に貢献することができ、これらが地域全体の活性化を押し上げていくものと期待しており、社会的な効果は高いと考えます。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

212028 まちづくり交付金の創設

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業

なし

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

なし

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212028 まちづくり交付金の創設

2 当該支援措置を受けようとする者

福島県福島市

3 当該支援措置を受けて実施し、またはその実施を促進しようとする取組の内容

東北三名湯と呼ばれ、温泉観光地としてのかつての活況を取り戻し、“もてなしとくつろぎの温泉郷”の創造に向けて、飯坂温泉の地域活性化と地域交流の基盤づくりを軸に、摺上川ダム周辺の自然と調和した地域づくり、地域に親しまれる摺上川と川辺の活用と風景を連携の軸とし、有機的に地域全体の再生に結びつけていくよう取組を推進します。

このため、まちづくり交付金の活用により、歩行者回遊軸の整備、地域交流の拠点づくりなどを検討していきたいと考えています。

また、現在取り組んでいる街なみ環境整備事業との連携を図りながら、効果的に取組を推進していきます。

まちづくり交付金の具体的な活用の検討

(1) 温泉街の情緒漂う街並み・空間の創出

歩行者回遊軸の検討と整備

- ・メイン道路と小径の選定と整備
- ・街路灯、足元灯の整備
- ・サイン計画
- ・湯巡りマップの制作

公衆浴場の改修による温泉回遊軸の整備

足湯の整備

火災で残った旅館建物の跡利用

(2) 地域のふれあい、コミュニティを高める空間の創出

堀切邸の地域交流センターとしての活用

親水公園、小公園の整備

(3) 以上の施策に必要な課題調査及び設計